

ギャラリー名	電話	住所	時間	メモ	展覧会
昭和のくらし博物館	03(3759)1808	大田区南久が原2の26の19	10時~17時	※金~日曜、祝日のみ開館	「スフとすいとんの昭和」展 ▼~8月29日(延長の可能性あり) →戦争はありとあらゆる面で人びとに多大な惨禍をもたらし、くらしのすべてはくらしのすべては戦時体制に投げ込まれてしまう。綿の代わりに「スフ(ステープル・ファイバー、代用繊維)」、米の代わりに「すいとん(小麦粉などを団子のように固めた代用食)」と生活物資の極端な欠乏、厳しい監視社会、空襲と、先が見えない絶望的な日々が続く。同展では、衣食住それぞれにおける代用品の誕生と作られ方、当時の社会情勢について展示し、戦争がいかにくらしを破壊するものであるかを検証する
江東区深川江戸資料館	03(3630)8625	江東区白河1の3の28	9時30分~17時(入館30分前)	会期中無休	<B1レクホール> わがまち風呂敷展 ▼7月29日~8月1日 →豊田満夫コレクションから、時代とともに変わりゆく東京を示す100点余の風呂敷を展示
ギャラリー棟美術館 代官山	070(5452)7230	渋谷区恵比寿西1の31の147リーマンション1F	11時~19時	会期中無休	ARTISAN AFRICA ▼7月28日~31日/最終日~17時 →チュニジア伝統ブランド・ファディーラ 長袖カットソー、南アフリカ伝統布シュウェシュウェで作るチュニック、西アフリカの色あざやかなプリントで作るワンピースなど、北アフリカ・南アフリカ・西アフリカの洋服や雑貨の紹介 22° ▼8月26日~29日 →多摩美術大学生産デザイン学部テキスタイルデザイン専攻4年、平野佑依・茂木朋輝によるオリジナルテキスタイルによる服、靴下、バッグなどの服飾雑貨の展示販売
渋谷区立松濤美術館	03(3465)9421	渋谷区松濤2の14の14	10時~18時(金曜~20時、入館30分前)	月曜休み(祝日の場合翌休)	アイヌの装いとハレの日の着物—国立アイヌ民族博物館の開館によせて— ▼6月26日~8月9日 →2020年に北海道白老町に国立アイヌ民族博物館が開館した。それを記念し、アイヌ民族の服飾文化を紹介する。まず、樹皮衣、草皮衣といった着物によって、その素材の多様性を明らかにするとともに、ルウンペ(色裂置文衣)、カバラム(白布切抜文衣)などのさまざまな刺繍で飾られた木綿衣を通じてアイヌの意匠の豊かさに触れる。華やかで独自の文様が施されたアイヌ民族のハレの日の着物を51点の作品によって紹介する
文化学園服飾博物館	03(3299)2387	渋谷区代々木3の22の7新宿文化クイントビル	10時~16時30分(入館30分前)	日曜・祝日休み	公益社団法人京都染織文化協会創立80周年記念 再現 女性の服装1500年—京都の染織技術の粋— ▼7月15日~9月28日 →平安遷都以降、貴族や武家、そして裕福な町人の華やかで贅沢な衣生活を支えたのが、都の工人たちだった。応仁の乱で京が一時灰燼に帰すことがあっても、工人たちはこうした苦難を乗り越え、新たな染織技術を次々に生み出して、現代に至っている。しかしその間、京都の染織が一時期低迷することもあった。昭和6年(1931年)、京都の染織業の振興を図るために行われたのが京都染織祭。同展では、当時の京都の染織技術を結集して復元された、古墳時代から江戸時代後期に至る女性の衣服を展示して日本の女性の装の1500年をたどるとともに、当館所蔵の江戸時代後期から昭和初期の優品を通して京都の染織技術の真髄を探る
江戸東京博物館	03(3626)9974	墨田区横綱1の4の1	9時30分~17時30分(入館30分前)	月曜休み(祝日の場合翌日)	大江戸の華—武家の儀礼と商家の祭— ▼7月10日~9月20日 →江戸の武家や商家の儀礼、祭りなどの年中行事をとりあげ、江戸の人びとの暮らしや人生における“ハレ”の場面や舞台を描いていく。同館が所蔵するコレクションからよりすぐりの品々をはじめ、国内各所から、染織品を含む優品を集めるとともに、イギリス・アメリカからも二領の鎧が日本に里帰りする。これらの展示品は、江戸に生きた人々の明日への活力を伝える
東京都美術館	03(3823)6921	台東区上野公園8の36	9時30分~17時30分(入館30分前)	月曜休み	第9回東京現展 ▼7月2日~8日 →油彩画、写真、日本画、水彩画、彫塑・立体、工芸 日本手工芸美術展覧会 ▼9月9日~17日
ACギャラリー	03(3573)3676	中央区銀座5の5の9阿部ビル4F	11時~19時(最終日~17時)	会期中無休	白いシャツ展 ▼7月26日~31日
高島屋史料館TOKYO	03(3211)4111	東京都中央区日本橋2の4の1	11時~19時	月・火曜休み	<4F展示室> クリエイティブリユース—廃材・端材からはじまる世界— ▼3月10日~8月29日 →不要なモノとして捨てられそうになった廃材・端材を、色や素材別に丁寧に分類・整理すると、ある時を境に「マテリアル=素材」としか見えなくなる。不必要と思われたモノが、暮らしを豊かにする魅力的なモノに生まれ変わる。前期展示では、素材に生まれ変わった廃材や端材とともに、それらを使って作られたプロダクトを展示、後期展示ではクリエイターの作品も紹介
永青文庫	03(3941)0850	文京区目白台1の1の1	10時~16時30分(入館30分前)	月曜休み(祝日の場合翌休)	美しき備え—大名細川家の武具・戦着— ▼7月23日~9月20日 →戦国時代、武将は数多くの武具・戦着を誂えた。それらは優れた機能性だけでなく、見た目や意匠にも工夫を凝らし、軍や自らの士気を高めた。また、泰平の世が続いた江戸時代も、武家の格式を象徴的に示す道具として代々が備えた。そのため、大名家伝来品の中には、武将たちの美意識を反映した個性豊かな武具・戦着が散見される。同展では、永青文庫に伝わるものの中から、2代・忠興が考案したと知られる具足形式「三斎流」の具足や、3代・忠利所用と伝わる変わり兜、南蛮服飾を意識した陣羽織など、美的素養の豊かな藩主たちが誂えさせた武具・戦着を紹介する
大倉集古館	03(3583)0781	港区虎ノ門2の10の3	10時~16時30分(入館30分前)	月曜休み(祝日の場合開館)	能Noh~秋色モード~ ▼8月24日~10月24日 →色と模様多彩の組み合わせにより「デザイン宝库」とも称される能装束を中心に秋らしい作品を選りすぐり、能のストーリーをあわす謡曲との関係性にも触れる。秋の謡曲にふさわしい能面、華やかな絵画工芸作品も併せて紹介する

ギャラリー名	電話	住所	時間	メモ	展覧会
国立新美術館	03(5777)8600	港区六本木7の22の2	10時～18時(入館30分前)	火曜休み(祝日の場合翌休)	ファッション イン ジャパン 1945-2020—流行と社会 ▼6月9日～9月6日 →1970年代以降、日本人ファッション・デザイナーたちは世界的に高い評価を得てきた。これまで、日本のファッションは、彼らを契機に突如として誕生したかのように語られてきましたが、実際はそうではない。明治期に日本が近代国家となり洋装を取り入れたことを契機に、第二次世界大戦後には洋装が一般的になり独自の装いの文化を展開してきた。同展では、特に戦後の日本におけるユニークな装いの軌跡を、衣服やアイデアを創造するデザイナー(発信者)サイドと、衣服を着用し、時に時代のムーブメントを生み出すこともあった消費者(受容者)サイドの双方向から捉え、新聞、雑誌、広告など時代ごとに主流となったメディアも参照し、概観する。これまでまとまって紹介されることのなかった、洋服を基本とした日本ファッションの黎明期から最先端の動向を、社会的背景とともに紐解く、世界初の展覧会
日本民藝館	03(3467)4527	目黒区駒場4の3の33	10時～17時(入館30分前)	月曜休み(祝日の場合翌休)	日本民藝館改修記念 名品展II—近代工芸の巨匠たち— ▼7月6日～9月23日 →近代工芸の巨匠、バーナード・リーチ、河井寛次郎、濱田庄司、芹沢銈介、棟方志功。当館創設者の柳宗悦と親しく交流した彼らは、生活に役立つ実用工芸を中心に、近代を代表する優れた作品群を生み出した22回目の改修記念名品展では、柳の思想に共鳴し、制作活動に生かした工芸作家の代表作を中心に展示
ギャラリー遊	042(345)8481	小平市天神町2の5の23	11時～18時	会期中無休	手描き友禪二人展 ▼8月13日～9月5日
群馬県立日本絹の里	027(360)6300	群馬県高崎市金古町888の1	9時30分～17時	火曜休み	夏休み子ども展「学ぼうカイロ」 ▼7月17日～8月30日 カイロの飼育量が全国一である群馬県。そんな群馬県にふさわしい施設として夏休みの子ども達に、カイロの生態から飼育方法など、カイロのいろいろなひみつを紹介
高崎市染料植物園	027(328)6808	群馬県高崎市寺尾町2302の11	9時～16時30分(入館30分前)	月曜休み(祝日の場合翌休)、	赤の力Part1 赤は火の色・生命の色～赤い色に願いを込めて～ ▼6月5日～7月18日 →茜、紅花、蘇芳、ラクク、コチニール、ベンガラといった、古くから「赤」を染めるのに用いられてきた天然染料や顔料と、その染織品を展示する。また、群馬県内の遺跡や古墳から出土したベンガラによる赤彩がなされた土器や、天然痘除けや魔除けとして赤が使われた達磨や「赤物」と呼ばれる郷土玩具なども同時に紹介。人々が赤い色に込めてきた祈りや願いに思いを寄せ、赤の力を感じられる展覧会
群馬県立近代美術館	027(346)5560	群馬県高崎市綿貫町992の1群馬の森公園内	9時30分～17時(入館30分前)	月曜休み(祝日の場合翌休)	群馬青年ビエンナーレ2021 ▼7月17日～8月22日 →16歳から30歳までの若い世代を対象とした公募展。ジャンルを問わず全国から募集した作品を審査し、入賞・入選作品を展示。平面、立体、映像、インスタレーションなど、様々な方法で、自身の“今”と表現の可能性を探る若手アーティストたちの作品を紹介
ギャラリーかれん	045(543)3577	横浜市港北区大倉山1の11の4	11時～18時	会期中無休	獲う二人展 ▼7月26日～31日 →和布、創作衣料、ホームスパンなど アトリエローザ展 ▼8月2日～7日 →創作帽子、布小物 いろ+IRO+彩=展 ▼8月23日～28日 →手作りバッグ、衣類など 無眩大展 ▼8月30日～9月4日 →テキスタイル、洋服など
横浜市歴史博物館	043(912)7777	横浜市都筑区中川中央1の18の1	9時～16時30分	月曜休み(祝日の場合開館)	布うつくしき日本の手仕事 ▼7月17日～9月23日 →日本で伝統的に使われてきた草木を素材とした布と、主に東北地方で施された刺し子をはじめとする様々な手仕事に注目し、そのつくしこまやかな世界を紹介し、人々の工夫と技、「用の美」を楽しむ
新潟県立近代美術館	0258(28)4111	新潟県長岡市千秋3の278の14	9時～17時(入館30分前)	月曜休み(祝日の場合翌休)	よみがえる正倉院宝物—再現模造にみる天平の技— ▼7月3日～8月29日 →正倉院宝物の魅力を伝え、その卓越した技術を後世に伝承することを目的として、これまでに製作された数百点におよぶ再現模造作品のなかから、選りすぐりの逸品を一堂に集めて公開。再現された天平の美と技に触れるとともに、日本の伝統技術を継承することの意義を伝える
富山県水墨美術館	076(431)3719	富山市五福777	9時30分～18時(入館30分前)	月曜休み(祝日の場合開館)	つながらる琳派スピリット—神坂雪佳 ▼6月22日～8月1日 →装飾芸術である「琳派」に傾倒し、近代の京都で図案家、画家として活躍した神坂雪佳が手本とした江戸琳派の美の潮流をたどり、染織、陶芸、漆芸から室内装飾や庭園まで、実に多面的な暮らしを彩るデザインを生み出した雪佳の多彩な世界を紹介する

ギャラリー名	電話	住所	時間	メモ	展覧会
国立工芸館	050(554)8600	金沢市出羽町3の2	9時30分 17時30分(入館30分前)	月曜休み(祝日の場合翌休)	たんけん！こども工芸館 ジェンガールパラダイス ▼7月17日～9月26日 →植物のもつれるほどに伸び広がるさま、そこで命を繋ぐ動物たちの躍動。工芸にみる「自然」には、そんな原初以来の人の真摯な願いがたどれる。造形思考をめぐらせて枝葉を刈り込み、磨き抜かれた美には、なおも手の届かない彼らからの誘いこときめくりズムが響いているよう。工芸の森を探検しながら、今ふたたび、生の息吹を体感できる。子どもから大人まで楽しめるプログラムも用意
石川県立美術館	076(231)7580	金沢市出羽町2の1	9時30分 18時(入館30分前)	8月9日～11日休み	夏休み 親子でたのしむ美術館 はじめての工芸 ▼7月10日～9月12日 →石川県の工芸ってどんなもの？ 陶磁、漆、染織、金工などの作品やその作り方を、工程見本でわかりやすく紹介する
金沢能楽美術館	076(220)2790	金沢市広坂1の2の25	10時～18時(入館30分前)	月曜休み(祝日の場合翌休)	Kanazawa Noh Museum COLLECTION 2021 ▼2月13日～8月29日 →江戸時代、加賀百万石の大名前田家のもと高度な武家文化が花開いた金沢。なかでも能楽は茶とともに武士の嗜みとして手厚く保護育成され、のちに「加賀宝生」と称されるほど広く浸透した。明治維新による幕藩体制の終焉は一時の衰退をもたらしたが、加賀宝生中興の祖・佐野吉之助をはじめ、する能楽愛好者らの尽力により「謡が降る街、金沢」の伝統が受け継がれた。同館は加賀宝生に伝わった能道具をコレクションの母体とし、以来、能楽に関する貴重な資料の収集・保存・展示を重ねている。役柄のエッセンスを凝縮させた究極の造形美を示す能面をはじめ、染織技術の粋を極めた絢爛豪華な能装束など、日本が誇る能楽文化の美意識を紹介する
松本民芸館	0263(33)1569	長野県松本市里山辺1313の1	9時～17時(入館30分前)	月曜休み(祝日の場合翌休)	アフリカとアジアの民芸 ▼3月16日～9月12日 →同館の創館者・丸山太郎の民芸蒐集は国外にもおよび、外来品の珍しさに惑わされずその品の何が自分の心をこんなに強く打つのか、自問自答しながら選んだといわれる。それらの中から、遠く離れたアフリカと、広いアジア地域の中でも中国、朝鮮以外の国に焦点を当て展示
安曇野ちひろ美術館	0261(62)0772	長野県北安曇郡松川村西原3358の24	10時～17時	水曜休み	現代の町絵師 笑いと反骨の画家 田島征彦展 ▼6月5日～9月5日 →田島征彦は、型絵染という技法を用い、ユーモラスかつ鋭い視点で創作をしてきた。81歳になる今も精力的に制作を続けており、秀をこめてつくられた作品の数々は私たちを魅了する。同展では、田島の絵本デビュー作である『祇園祭』をはじめ、抱腹絶倒の『じごくのそうべえ』、現代の社会に生きる子どもたちに視点をあてた『やんぼるの少年』などの原画を紹介。また、大型インスタレーションも展示する
岐阜市歴史博物館	058(265)0010	岐阜市大宮町2丁目18の1	9時～17時(入館30分前)	月曜休み(祝日の場合翌休)	近世能装束の世界 用の美 武家貴族の美意識 ▼7月17日～9月12日 →「能」は14世紀に大成された日本を代表する伝統芸能で、武家文化を中心に発展し、能面は、桃山・江戸時代初期に能装束は江戸時代中期18世紀に武家式楽として盤石の地位を得た時に完成した。脆弱な絹糸・色彩などの素材は、移りゆく時の流れによって退色と質感の変化、舞台装束の宿命である皺や傷みが生じる。修復による変化は一時限りの深い情致を薫らせ、能曲に登場する人物の深い内面に潜む微妙な心と唯一相応する。能装束の復原、制作により、能楽文化に貢献している山口能装束研究所の協力で能装束・能面の「用の美」を紹介する
美濃加茂市民ミュージアム	0574(28)1110	岐阜県美濃加茂市蜂屋町上蜂屋3299の1	9時～17時	月曜休み(祝日の場合翌休)	蚕とまゆ展 ▼4月24日～8月22日 →かつてこの地域では、養蚕がとても盛んだった。同展では、民具展示館と市内にあった民家を復元したまゆの家(生活体験館)を会場に、当時の養蚕の様子を再現しながら、道具の使われ方やカイコの生育、養蚕を営んだ人々の生活を紹介。まゆの家では、ボランティアによる目棚を作り、「座敷飼い」とよばれた飼育の様子を再現する
静岡市立芹沢銈介美術館	054(282)5522	静岡市駿河区登呂5の10の5	9時～16時30分	月曜休み(祝日の場合翌休)	芹沢銈介のブック・デザイン ▼7月6日～9月23日 →「夏」編は、芹沢銈介のデザインに焦点を当てた展覧会。芹沢デザインの中でも、圧倒的な質と量をほこる「装幀(ブック・デザイン)」の仕事を集。約50年間にわたる、300点を一挙公開する。川端康成、内田百閒、山本周五郎、獅子文六、佐藤春夫ら、数々の人気作家の名作を彩った芹沢デザインを紹介。あわせて、型染うちわや扇子など、夏らしいデザインの仕事も展示する
愛知県美術館	052(971)5511	名古屋市東区東桜1の13の2愛知芸術文化センター10F	10時～18時(金曜 20時、入館30分前)	月曜休み(祝日の場合翌休)	<ギャラリー> 第55回中部染色展 ▼7月13日～18日
一宮市博物館	0586(46)3215	愛知県一宮市大和町妙興寺2390	9時30分 17時(入館30分前)	月曜休み(祝日の場合翌休)	横井庄一さん 絵本原画とグアム島生活資料 ▼7月17日～8月15日 →戦中・戦後28年間、ジャングルに潜伏した横井庄一さんの生涯を描いた絵本の原画の他、グアム島で用いていた織機などを含む作りの道具を展示
豊田市民芸館	0565(45)4039	愛知県豊田市平戸橋町波岩86の100	9時～17時(入館30分前)	月曜休み(祝日の場合開館)	植物文様の民芸 ▼3月9日～8月29日 →江戸時代中期の図説百科事典であり、項目数の多さでも知られる『和漢三才図会』の挿絵とともに、植物の描かれた染織品、陶器などの民芸品を約250点展示紹介する
日日	075(254)7533	京都市上京区信富町298	10時～18時	火曜休み	関島寿子 バスケターリー ▼7月2日～19日 →1970年代の後半にニューヨークで、工芸を概念的に扱う造形の動きに触発されて以来、新しいかご作りの旅を続けるバスケターリー作家による作品展

ギャラリー名	電話	住所	時間	メモ	展覧会
京都国立近代美術館	075(761)4111	京都市左京区岡崎円勝寺町26の1	9時30分~17時(金曜~20時、入館30分前)	月曜休み(祝日の場合開館)	モダンクラフトクロニクル—京都国立近代美術館コレクションより— ▼7月9日~8月22日 →1963年に開館した同館は活動の柱の一つに工芸を置いており、国内有数の工芸コレクションを形成してきた。同館では、これまで「現代国際陶芸展」、「現代の陶芸—アメリカ・カナダ・メキシコと日本」、「今日の造形(織)—ヨーロッパと日本」、「現代ガラスの美—ヨーロッパと日本」など、折に触れて日本との比較の中で海外の工芸表現を紹介し、日本の美術・工芸界に大きな刺激を与えてきた。同展では、同館の工芸コレクションを用いて、これまでの展覧会活動の一端を振り返るとともに、近代工芸の展開を紹介する
泉屋博古館	075(771)6411	京都市左京区鹿ヶ谷下宮/前町24	10時~16時30分(入館30分前)	月曜休み	ゆかた 浴衣 YUKATA ずずしきのデザイン、いまむかし ▼6月5日~7月19日 →ゆかたは、江戸時代に入浴後のくつろぎ着として着られるようになり、やがて夏の気軽な外出着として定着した。素材も麻から木綿へと変化する中で、「型染」や「絞り」など染めの技法が発達し、ゆかた独自のいきな図案が誕生する。同展では、江戸時代のゆかたから、鍋木清方など近代の画家がデザインしたゆかた、昭和の人間国宝(重要無形文化財保持者)のゆかたなど、様々な作品を紹介すると共に、染めに使われる型紙や当時の風俗を描く浮世絵など、素材でありながら繊細さを兼ね備えたゆかたの魅力や、デザインと遊びの要素から紐解く
川島織物文化館	075(741)4120	京都市左京区静海市市原町265	10時~16時30分(入館30分前)	見学は要予約。土・日曜、祝日休み	守りたい贈るこころ「襦を呼ぶ帛紗(二)」 ▼4月26日~10月29日 →贈り物やご挨拶の品を待参する際には帛紗が用いられてきた。近年は目にする機会も少なくなってきたが、川島織物の帛紗生産の全盛期には、多彩なモチーフ・色柄の帛紗が使われていた。現在はあまり目にする事のないパターンや雰囲気のものもあり、デザインとしても興味深い帛紗が多くあった。初代・二代川島甚兵衛が研究のために収集した帛紗をはじめ、大正御大典記念帛紗や贈り手の思いが感じられる帛紗などを約30点を紹介
ギャラリーギャラリー	075(341)1501	京都市下京区河原町通四条下ル東側寿ビル5F	12時~19時(最終日~17時)	木曜休み	濱田菜々展 ▼7月3日~18日 →ファイバーアート作品の展示
京都絞り芸芸館	075(221)4252	京都市中京区油小路通御池下ル	9時~17時	8月2日、13~16日、10月1日、11月1日、25日~30日、12月1日休み	巨大絞り几帳 神奈川沖浪裏展 ▼7月1日~12月23日 →6枚の大きなシルク生地を使い、北斎の神奈川沖浪裏をモチーフに絞りて染めあげた巨大几帳(幅6.5m、高さ8m)を展示。また「富岳三十六景」を題材に、絞り染めの技術を駆使して制作した絞り額全46枚も同時展示
京都文化博物館	075(222)0888	京都市中京区高倉通三条上ル東片町623の1	10時~19時30分(入館30分前)/ギャラリーは10時~18時(最終日~16時)	月曜休み(祝日の場合翌休)	丸紅所蔵小袖名品展 ▼5月22日~7月18日 →丸紅株式会社の染織品コレクションより優品を紹介 祇園祭展 ▼6月5日~8月1日 →京都の夏を彩る祇園祭について紹介する。展示では、主に山鉦巡行を取り上げ、山や鉦に飾られる懸装品、金具類のほか、山鉦の様子を伝える記録類や宵山に町家に飾られる屏風なども公開する <5Fギャラリー> ファイバーアートの15人 ▼8月3日~15日 →現在活躍するベテランから中堅まで、関東、関西15名のファイバーアーティストが作品を展示する。出品作家は、伊藤藍、出居麻美、牛尾卓巳、梅田祐子、大手裕子、草間結雄、久保田繁雄、佐久間美智子、鈴木純子、田中孝明、椿樫、中川裕孝、中野恵美子、野田睦美、林塔子
千總ギャラリー	075(211)2531	京都市中京区三条通烏丸西入千總本社ビル2F	11時~18時	火・水曜休み	色を巡る Narrative of colors 第3期「あお」 ▼5月29日~8月22日 →目にも涼しげな青地の小袖や婚礼衣装、青のこぼの由来に焦点を当てたテーマの絵画作品を紹介
斎宮歴史博物館	0596(52)3800	三重県多気郡明和町竹川503	9時30分~17時(入館30分)	月曜休み(祝日の場合翌休)	再現！姫君の空間—王朝装束の華やぎと驚きの世界へ— ▼7月10日~9月5日 →絵巻や物語に基づき、平安時代の原型に近い女装装束を復元し、当時の儀式空間の演出を再現することで、雅な王朝文化を体験できる展示を行う
奈良県立美術館	0742(23)1700	奈良市登大路町10の6	9時~17時(入館30分前)	月曜休み(祝日の場合翌休)	ウィリアム・モリス 原風景でたどるデザインの軌跡 ▼6月26日~8月29日 →アーツ・アンド・クラフツ運動を先導したモリスの幼少期や学生時代にはじまり、晩年に至るまで、デザイナーとしてのモリスの生涯を紐解く。モリスの制作活動は「住まい」「学び」「働いた場所」など、その時々々の環境と深いつながりがあった。同展ではモリス自身および彼の仲間たちによるデザイン・工芸作品80点に、写真家・織作峰子が撮影したモリスにちなむ風景を組み合わせて、そのデザインの軌跡をたどる
広島県立歴史博物館	084(931)2513	広島県福山市西町2の4の1	9時~17時(入館30分前)	月曜休み(祝日の場合開館)	ミニ展示「緋ボランティアの成果 緋KASURI(3)—動物文様— ▼5月25日~8月4日 →緋ボランティアにより整理されている同館所蔵の緋コレクションから、今回は、身近な動物、とくに鳥をモチーフにした作品を紹介
島根県立石見美術館	0856(31)1860	島根県益田市有明町5の15	10時~18時30分(入館30分前)	火曜休み	コレクション展「フォーマル/カジュアル」 ▼7月14日~8月23日 コレクション展「ファッションを伝える、拡げる」 ▼9月1日~10月4日

ギャラリー名	電話	住所	時間	メモ	展覧会
瀬戸内海歴史民俗資料館	087(881)4707	高松市亀水町1412の2(五色台山上)	9時~17時(入館30分前)	月曜休み(祝日の場合翌休)	瀬戸内海の海上生活 ▼7月10日~9月26日 →瀬戸内海では、古くから行商や漁撈を行うために海上生活が営まれてきた。鳴門の堂浦を拠点に瀬戸内海全域にテグスなどの漁具を行商したテグス船の資料や、タイ網漁やサワラ漁の際、船上で使用した生活資料等を展示し、海上生活の具体的な様子を紹介
高松市美術館	087(823)1711	高松市紺屋町10の4	9時30分~17時 金・土曜~19時(入館30分前)	月曜休み(祝日の場合翌休)	ゆかたと藍の世界 ▼7月17日~8月29日 →ゆかたの歴史と変遷を振り返りながら、ファッションから現代アート作品まで「ゆかた」と「藍」をキーワードに紹介。江戸時代の藍染衣装から、絹地に藍染が施された朝廷の女官の衣装、長板中形の技法で精緻な型染めをほどこしたゆかたなどを展示。また、現代に至って、伝統的な長板中形の技法で人間国宝(重要無形文化財保持者)に指定された清水幸太郎、松原定吉と、孫にあたる松原伸生、伝統に基づく藍染を現代の衣服に取り入れ進化させたファッションブランドmatohu、藍の産地・徳島で藍の歴史を研究しながら、自然発酵にこだわった藍染布の制作を続ける森くみ子、さらに藍を表現手段として、着物だけでなく現代アートに昇華させた福本潮らの作品も展示
丸亀市立資料館	0877(22)5366	香川県丸亀市一番町(城内)	9時30分~16時30分(入館30分前)	月曜休み	ハレの日を祝うー婚礼衣装と嫁入り道具を中心にー ▼7月17日~9月5日
北九州市立美術館	093(882)7777	福岡県北九州市戸畑区西鞘ヶ谷町21の1	9時30分~17時30分(入館30分前)	月曜休み(祝日の場合翌休)	ザ・フィンランドデザイン展ー自然が宿るライフスタイルー ▼6月26日~8月29日 →マリメッコやフィンレイソンのテキスタイル、カイ・フランクのガラス工芸のほか、陶磁器や家具など、1930年~1970代にデザイン・制作された日本でも人気の高いプロダクトともに、同時代の絵画などもあわせて展示し、フィンランドのデザインを多角的に紹介する
熊本県伝統工芸館	096(324)4930	熊本市中央区千葉城町3の35	9時~17時	月曜休み(祝日の場合翌休)	熊本の風景と工芸ー前を向く方にー ▼7月6日~8月29日 →九州や故郷阿蘇の大自然をテーマにシャッターを押し続けてきた写真家、長野野市のが撮影した熊本の風景写真とそれらの風景を背景として生まれた工芸品を展示する 涼の工芸展 ▼7月13日~18日 →熊本県伝統工芸館友の会による作品展 熊本県伝統工芸協会展と夏まつり ▼7月27日~8月1日 →熊本県伝統工芸協会主宰の工芸作品展 きとゆ工房~やきもの&ぬのもの~ ▼8月3日~9日 かご展~自然素材~エコラフト~ ▼8月3日~9日 華麗なるペルシャ絨毯の世界展 ▼8月24日~29日 →ミラーコレクション
那覇市歴史博物館	098(869)5266	那覇市久茂地1の1の1バレットもじ4F	10時~19時	木曜休み	空色地の紅型衣装 ▼7月2日~8月4日 流水文様の衣装 ▼8月6日~9月1日